

全米輸による海外需要開拓の取組例①

ANUGA2023への出展及び商談（ドイツ）（2023年10月）

欧州最大級の食品見本市であるANUGA2023のJETROジャパンパビリオン内に全米輸ブースを出展（来場者数：約14万人、出展社数：7,850社）。各社商品の試飲・試食に加え、「全日本カレー工業協同組合」と連携して、日本産米を使用した日本式カレーの提供も実施。

見本市終了後も、全米輸独自で商談会を開催し、試飲・試食のほか、日本産米・米関連食品の魅力についてのセミナーを実施。



▲展示会会場の様子



▲日本産米を使用した日本式カレーの提供

サウジアラビアにおけるプロモーションイベント（2023年12月）

サウジアラビアにおいて、現地事業者を招待したプロモーションイベントの実施や個社への訪問を通じた商談を実施。

プロモーションイベントの試食会では、JETROリヤド事務所と連携して、日本産水産物を活用した日本産米の試食メニューも提供。事業実施後も更なる成約獲得に向けて、フォローアップを実施。



▲プロモーションイベントの様子



▲日本産水産物コラボの試食メニュー
(小俵おにぎりとマグロガーリックバター)

Winter Fancy Food Show 2024への出展（アメリカ）（2024年1月）

アメリカ西海岸最大級の高級食品見本市であるWinter Fancy Food Show 2024に出展（前年の同見本市の来場者数：約13,000人、出展社数：約1,100社・団体）。全米輸ブースをJETROのジャパンパビリオン内及びその隣接ブースに配置することで、現地バイヤーを効果的に誘客。

コメについては、アメリカ向けのほか、カナダやメキシコ向けにも引き合いがあり、また米菓は、現地系バイヤーに焦点を絞った商品開発やPB商品化の提案等が好評を得た。



▲ブースでの商談の様子



▲展示会会場の様子

全米輸による海外需要開拓の取組例②

日本産コメ・コメ加工品輸出ハンドブック（2023年度）

全米輸では、海外におけるコメ・コメ加工品の消費・流通等のマーケット情報や、関税や検疫制度等の規制情報を掲載したハンドブックを作成（第1版 2016年度発刊）。最新の情報を反映させるとともに、新たにサウジアラビア、イスラエル及びメキシコを加え「令和5年度版 日本産コメ・コメ加工品輸出ハンドブック」（対象：19か国・地域）を作成。

作成したハンドブックは、日本産コメ・コメ加工品の輸出に取り組んでいる事業者や、これから取り組む事業者が広く活用できるよう全米輸HPに掲載。



▲ ハンドブック

パックご飯の市場開拓実証事業（2023年度）

台湾・香港・アメリカの日本産米パックご飯販売店及びこれまでパックご飯の取扱がない小売店において、すし酢付きパックご飯として消費者に提案することで、購入意欲に影響があるかを実証。調査においては、「パックご飯で自分好みの寿司を作る」というコンセプトを提示し、コンセプトに対する消費者の受容性や購買意欲を把握。

パックご飯に対する認知度は高いものの、購入経験率は低く、パックご飯を使った日本食メニューの提案をすることで、購買意欲が増加するという結果となった。現地系消費者へのパックご飯の需要拡大に向けて、この結果を今後のプロモーション等に反映できるよう、会員企業にフィードバックを実施。



▲パックご飯に添付したすし酢

消費者向けサイトの制作（2023年度）

海外の消費者に対する日本産コメ・コメ加工品の認知度獲得を狙い、消費者向けWEBサイトを制作。日本産コメ・コメ加工品の「『おいしい』を伝える」をコンセプトに、「レシピ」「シェフの話」等多様なコンテンツを多言語（英語・中国語（繁体字）・日本語）で掲載。

また、香港、アメリカ、シンガポールの消費者向けには、検索エンジンやSNS上でオンライン広告を実施し、同WEBサイトへの誘客を進めている。



▲ WEBサイト

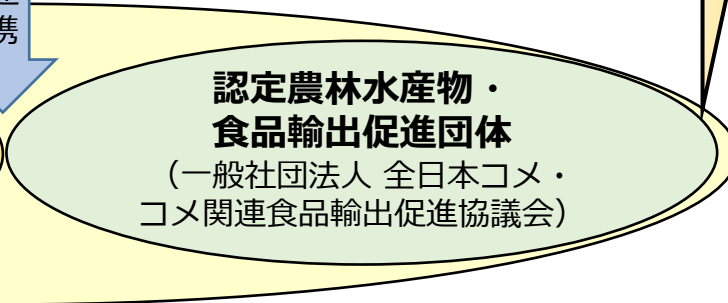
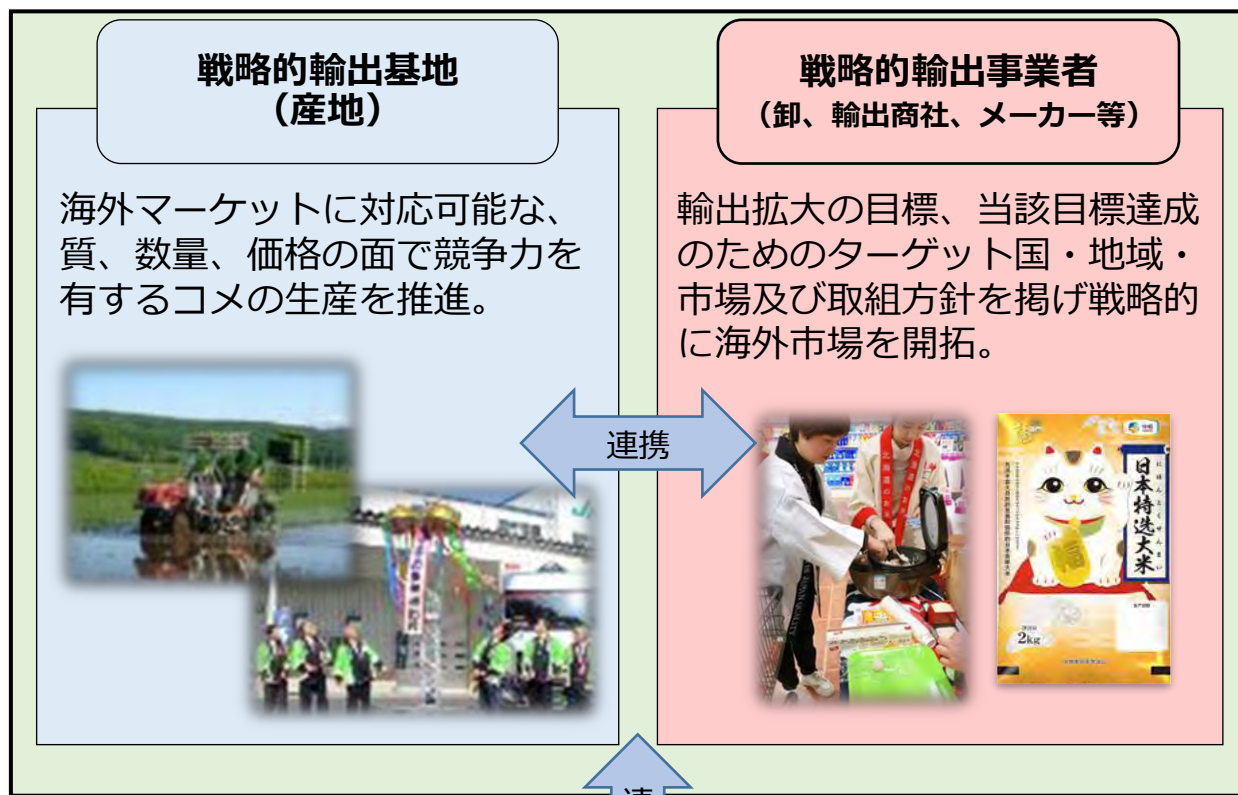
コメ海外市場拡大戦略プロジェクトについて①

- 「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」は、コメの輸出量を飛躍的に拡大すべく、平成29年9月に立ち上げ。
- 本プロジェクトは、目標及び取組方針を掲げてコメ・コメ加工品の輸出拡大に取り組む事業者・産地が参加可能なプラットフォームであり、参加者への支援を実施。

《国による支援》

- ・ 戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地（産地）等が連携して実施する取組を後押し
- ・ （新たに）輸出に取り組む事業者・産地に対するマッチング・相談等サポート
- ・ 輸入規制についての情報発信

支援



産地と輸出事業者が一体となったマーケットイン型の海外需要開拓

輸出目標の達成に向けた
コメ・コメ加工品輸出の飛躍的増加

コメ海外市場拡大戦略プロジェクト②

- 現在までに121の戦略的輸出事業者、166の戦略的輸出基地が2025年の輸出目標と目標達成に向けた取組方針を設定。（戦略的輸出事業者による目標数量合計：約17.2万トン(原料米換算)）
- 参加事業者に対して、戦略的輸出事業者が産地と連携して取り組むプロモーション等に対する支援、戦略的輸出事業者と産地のマッチングの推進や海外規制動向のタイムリーな情報発信等の施策を通じて輸出を強力に後押し。

戦略的輸出事業者参加状況（2024年8月2日時点）

121事業者（目標数量合計：17.2万トン※）

○ 主な戦略的輸出事業者（輸出目標上位5事業者を抜粋）

| 戦略的輸出事業者 | 輸出目標 | 重点国・地域 |
|----------------|---|---|
| JA全農 | コメ：50,000トン パックご飯：200万食 | 中国、北米、EU、アジア等 |
| (株)神明 | コメ：10,500トン パックご飯：100万食 米粉・米粉製品：100トン | 中国、アジア、EU等 |
| (株)クボタ | コメ：10,000トン | 米国等 |
| 全農インターナショナル(株) | コメ：10,000トン パックご飯：100万食 | 中国、北米、EU、アジア等 |
| 木徳神糧(株) | コメ：6,000トン | 中国、香港、北米、EU、東南アジア（シンガポール・タイ等）、ブラジル、アジア等 |

※ 原料米換算。輸出事業者の目標の積み上げであり、重複して計上される場合もある。

戦略的輸出基地（産地）参加状況（2024年8月2日時点）

- (1) 団体・法人 157産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 8団体（JA全農県本部、経済連）
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1団体（JA全農）
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

○ 主な戦略的輸出基地（令和3年産輸出用米生産実績上位5産地を抜粋）

| 【団体】 | | 【農業法人】 | |
|------|------------------|--------|----------------|
| 都道府県 | 戦略的輸出基地 | 都道府県 | 戦略的輸出基地 |
| 新潟県 | JAグループ新潟米輸出推進協議会 | 新潟県 | (株)新潟クボタ |
| 宮城県 | JAみやぎ登米 | 青森県 | (株)みちのくクボタ |
| 岩手県 | JA岩手ふるさと | 北海道 | (株)芦別RICE |
| 茨城県 | 茨城県産米輸出推進協議会 | 山形県 | (株)庄内こめ工房 |
| 福井県 | JA福井県 | 北海道 | (株)松原米穀契約生産者組合 |